

7月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

29年7月のDI値は8指標中、4指標が上昇。特に「売上高」及び「収益状況」は2桁の大幅な上昇となった。「販売価格」「取引条件」「設備操業度」においては小幅ながら下落。「景況」は横這いであった。

2. 県内中小企業の景気の現状

猛暑の影響で家電製品小売業では、引き続き季節商品の動きが活発であり、商店街においても夏物商品の動きが堅調であった様子。また、生コンクリート業においては、官需、民需ともに今後の新規需要が見込める事について前向きな声が寄せられた。

一方、慢性化する労働力不足問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に嘆く声も寄せられた。

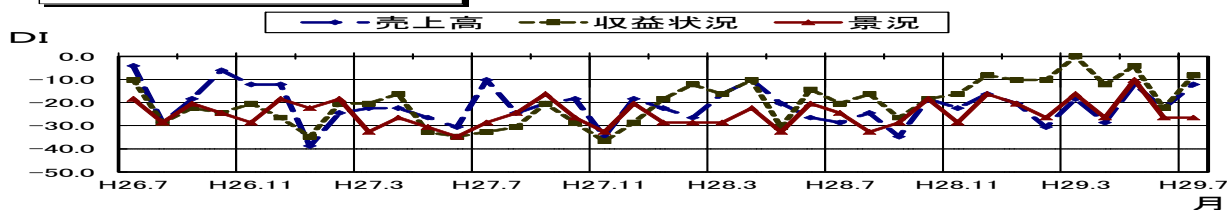
景気は回復を続けていると言われているものの、日経平均株価が2ヶ月半ぶりの安値を記録。更に緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H28	8月	9月	10月	11月	12月	H29	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比 増減
景況	-24.5	-32.7	-28.6	-18.4	-28.6	-16.3	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-26.5	0.0	
売上高	-28.6	-24.5	-34.7	-18.4	-22.4	-16.3	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-12.2	10.2	
収益状況	-20.4	-16.3	-26.5	-18.4	-16.3	-8.2	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-8.2	14.2	
販売価格	2.0	-8.2	-6.1	6.1	2.0	4.1	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-6.1	-4.1	
取引条件	-10.2	-6.1	-8.2	4.1	2.0	4.1	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	-8.2	-4.1	
資金繰り	-10.2	-10.2	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-6.1	4.1	
設備操業度	-38.9	-33.3	-22.2	-5.6	-11.1	-11.1	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-6.1	-2.0	
雇用人員	-22.4	-16.3	-16.3	-16.3	-12.2	-16.3	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移



【景況関連の報告】

【製造業】

<食 料 品>

1. 味 噌・売上高減少。収益状況悪化。味噌の出荷量は対前年同月比98.7%、生産量は96.1%となった。主原料の国産米、輸入米の価格は上昇しており、コストの高止まりが継続している。夏場は消費が落ち込む為、収益状況は悪化。一方、健康志向ブームもあってか、甘酒の消費は拡大。売上増となり好調である。

<木材・木製品>

2. 製 材・販売ルートによりバラツキがあり、全体的には厳しい状況である。
3. 木 材・原木丸太出材量は多くなりつつある。荷動きも改善の兆しが見られ、引合いが出始めているが木材価格の上昇は見られず、売上に結びつかない。合板用材、CLT用木材等の需要も多いものの、景気回復の実感が乏しい。
4. 木 材・売上高不変。収益状況悪化。「経済が徐々に上昇傾向にある」という政府の景気動向調査の発表があるが、日本経済はどん底に向かっていると感じられる。

<印 刷>

5. 印 刷・7月は定期的な行事が少ない閑散月になる。お盆を控え、いろんなイベントが開催されているものの大きな需要には結びついていない。もっと色々なアプローチを試し、経済活動を活発にする需要を掘り起こしていかなければならない。
6. 印 刷・7月は閑散期であるが、例年に比べ本年は各社受注減となっている模様。阿波踊りを控え、販促物以外の受注が低迷している。また販促物においても、既存顧客がネット印刷へ発注した事例が数社から聞かれた。9月になるまで活発な動きは期待できないのかもしれない。中央会及び行政庁への要望事項として、地方の印刷業者は官公需関連の印刷物に依存するケースが多い。地元資本の商工業者からの発注が減り続けるなか、雇用の確保と健全経営維持のため、官公需関連の適性価格での発注をお願いしたい。また、官公需において、成果物の納品時に製作途中で使用するデータの提出が求められることが多いが、もう一度知的財産権等を見直して頂きたい。

<窯業・土石製品>

7. 生 コ ン・7月の出荷量は昨年同月比増加したが、特需工事の納入量を差し引いて考えると、地元工事に対する出荷量は減少していく一方である。

8. 生 コ ン ・ 7月の出荷数量は、対前年同月比4.7%減少となった。今後の需要見通しについては、四国横断自動車道、吉野川大橋の工事が秋から本格化され、また民間では病院設備新設など新規需要を見込める事により、前年数量を上回ると予想される。業界では、若手の有資格者確保を目的に昨年度から「コンクリート技士・主任技士資格支援取得講座」を実施。組合員の能力向上を目指している。

<鉄鋼・金属>

9. 鉄 鋼 ・ 業況に大きな動きはない。また売上高、収益状況に繋がるような大きな変化も見られず、引き続き横這い状態にある。しかし、一部で引き合いの増加や設備操業度の上昇の動きも見受けられ、今後の景気の持ち直しが期待される。
10. ス テ ン レ ス ・ 売上高不変。収益状況不変。国内の大手企業では設備投資の動きは堅調であるが、中小企業の動きはまだまだである。海外情勢の不安定な状況は継続しており、全体として良い材料が少なく、先行き不透明な状況が継続している。

<一般機器>

11. 機 械 金 属 ・ 売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化は見られない。景気、設備投資ともに緩やかな回復傾向が見られるものの、将来に対する先行き不透明感が依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、労働需給の引き締まり傾向により、中小企業への人手不足感が継続している。

【非製造業】

<小 売 業>

12. 機 械 器 具 ・ 業況悪化の話題が多く、好転材料に乏しい。
13. ショッピングセンター ・ 昨対比はスーパー100.6%（食品99.9%、衣料105.3%）、専門店97.9%であった。店舗全体では昨対比99.6%という結果であった。専門店の業種では、食料品が引き続き好調を維持している。先月同様、食料品と大手100円ショップは売上が伸びているが、それ以外の店舗は売上に苦戦している。
14. 電 気 機 器 ・ 売上高増加。収益状況好転。7月は猛暑による影響で、エアコンの販売が好調であった。冷蔵庫、洗濯機等の白物家電も引き続き好調。しかし、映像関連機器は依然として不調である。
15. 量 小 売 業 ・ 売上高不変。収益状況不変。梅雨明けからの猛暑の影響で、消費者からは「涼しくなってから畳替えをして欲しい。」といった要望が多くなっている。

<商店街>

16. 徳 島 市 ・ 売上高増加。収益状況不変。盛夏物の動きが堅調であった事と早めのセール実施により売上確保はできているが、例年より厳しい暑さで人の動きは鈍く、全般的に活気が見られない状況であった。

17. 徳島市・飲食店（ハンバーガー店）が7月中旬にオープンした。今後の売上高増加に期待を寄せたい。

18. 阿南市・夏祭りを開催したものの、業況に変化なし。

<サービス業>

19. 土木建築業・売上高不変。収益状況不変。7月は改築工事と新直轄工事の工事量は予算要求金額が減額となり、現在施行中の工事は新発注が少ない。また、他の施行中の工事も新発注が少なくなっている。工事金額は大きくないものの箇所数があるので、昨年度以上に予算がつくと予想される工事もあり、全体として工事金額は、昨年度と大差はないと思われる。

20. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比+7.4%の1,594台、中古車は+3.9%の483台、合計では+6.6%の2,077台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+11.7%の1,104台、中古車+3.8%の414台、合計は+9.4%の1,518台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比+7.8%の3,595台であった。先月に比べて登録自動車（普通車）、軽自動車ともに販売台数は落ち込んだものの前年よりは良い数字を保っている。例年8月は1年間で最も売上台数が落ち込む月なので、その分来月は車検や定期点検等の収益に期待したいところ。

21. 旅行業・売上高は不変であったものの、業況は悪化した。

22. 広告業・昨年と変わりはないが、今後の業況見通しはやや良い。

<建設業>

23. 建設業・売上高減少。収益状況悪化。毎年のことであるが、公共工事の発注が遅れている。

24. 解体工事業・公共工事が好調である。また民間工事や戸建て、企業等建て替えに伴う解体工事についても増加傾向である。

25. 鉄骨・鉄筋工事業・今月も対前月比業況に変わりはない。

26. 板金工事業・極暑であるが、程よく仕事が回っている。

27. 電気工事業・業況は不変であったものの、新設住宅口数は247件であり、対前年比83.4%と減少。

<運輸業>

28. 貨物運送業・売上高減少。収益状況好転。一般貨物輸送は、全般的に梅雨明けまでは低調であった。しかしその後、飲料品を中心に量的に増加。また、固定客が得られる売上は昨年並みに推移している。軽油単価は対前月比約1円の上昇となり、来月以降も上昇基調は続くだろう。

29. 貨物運送業・売上高不変。収益状況不変。猛暑の影響で、飲料品や医薬品の輸送量が多い。軽油価格は横這いに推移している。